学校だより

令和８年 11 月吉日
上越市立有田小学校
校　長　　杉田　卓裕

「なぜ勉強する？」

前号で、**【認知スキル】**と**【非認知スキル】**という言葉をお示ししました。そして、文科省は**【非認知スキル】**の重要性について言及し「生きる力」を付ける方向に進んでいるとも記載しました。ここでもう一つお伝えしたいのは、**【非認知スキル】**を育むと**【認知スキル】**も高まっていくと言われていることです。しかし、その反対は評価されていません。

それでは、学校は今からでもすぐに**【非認知スキル】**を高める方にシフトするかというとそうではありません。教科学習の必要性は十分にあると考えます。しかし今、教科だけではなくこの**【非認知スキル】**が重要視されているということを知っておいてください。そして当校では、**「自分もみんなも大切に　一人一人のかがやきづくり」**において、集会活動や縦割り班活動、委員会や学級の当番、係活動などの自治的・自主的な取組にも力を入れていこうと考えています。次年度については 3 学期の学校だよりで詳しくお伝えしていきますが、文科省は教科の学習時間を調整し、学校独自の特色ある時間、子ども一人一人が主体的に自己調整する時間などを創出して取り組んでもよいとする方向に進んでいます。つまり、教科の学習をしながらも**【非認知スキル】**が高まる取組を進めていこうと考えています。ちなみに、生成ＡＩに**【非認知スキル】**を５つに整理して表現してもらいました。**①自分と向き合う力②人と関わる力③自分をコントロールする力④自ら行動する力⑤よりよく生きようとする力**です。将来幸せになるためにも身に付けたい力です。

さて、先ほどの教科学習の必要性について触れました。先日、6 年生教室に自習監督に入った算数の学習です。6 年生の子どもたちに、「この学習は世の中で使われている？」と聞くと、一生懸命考えて意見を言ってくれました。そこには世の中とのつながりが見えました。

私は学校での学習を大切だと思う理由が二つあります。一つ目は、**「見方」「考え方」**を学ぶことです。これらは「フィルター」や「メガネ」と表現されることがあります。私は**「メガネ」**という言葉を使いたいと思います。例えば 2 年生の算数で直角を学ぶと、周りを見渡した時に、これまで気付かなかったさまざまな直角が見えてきます。今まで見えていなかったものが見えてくる。それが「世界を知る」であり「学び」だと考えます。学校ではさまざまな学習を通して、世の中を理解するためのメガネを身に付けていきます。そして世界を知ることは、同時に自分はそれをどう考えるのかという問いが生まれ、自分を知ることにもつながると考えます。

二つ目は、人とのつながりをつくることです。学習指導要領によって、日本の子どもたちの多くがおおよそ同じ学習内容を学習しています。例えばスイミーを学んだ 2 年生は、スイミーという共通体験によって全国どこでもレオレオニ（作者）の世界を共有しています。その共通体験を作り出しているのが教科の学習です。「スイミーのようだよ。」「うん、ほんとだ。」全国どこにいてもこのような会話ややり取りが生まれ人とのつながりができます。

教科の学習が人とのつながりや結びつきを強くする。レオレオニを知っていれば世界の誰かともつながりそうです。けれども知らなかったらつながりは広がりません。**学びによって人とつながり、幸せになる。世界を知って世界とつながる。自分を知って自分をコントロールする。**これらは、ある意味**【非認知スキル】**とも言えそうです。教科の学習が非認知スキルにもつながりそうです。前号からの「勉強する＝将来の幸せ」の理解が少しでも進めば幸いです。学校の学びも今後変わってきています。家庭でどのようなことをすればよいか、次号でお伝えします。